大正五年四月六日第三種郵便物認可　昭和二十一年十二月五日印刷納本　毎月一回一日發行

哲學研究

第三十卷　第十册

第三百五十五號

昭和二十一年十二月十五日發行

美の批判（承前）……植田壽藏

起信の課題（承前）……久松眞一

精神分裂病と神經症との關聯に就て……村上仁

知の第二面（承前）……山田次郎
——個性的自覺としての美——

京都帝國大學文學部內

京都哲學會

京都哲學會規則

第一條　本會ヲ京都哲學會ト稱ス

第二條　本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其ノ普及ヲ以テ目的トス

第三條　本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ

一　毎月一回研究會ヲ開ク

一　毎年公開講演會ヲ開ク

一　毎月一回哲學研究ヲ發行ス

第四條　本會ノ事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク

第五條　本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク

一　委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　書記(一名)委員會ニ於テ嘱託ス

第六條　本會ノ趣旨ニ贊同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得、學校、圖書館、教育會、其ノ他團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得

第七條　會員ハ會費トシテ年三十圓、前後二期ニ分チテ前納スルコトヲ得

第八條　會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得、且ツ雜誌『哲學研究』ノ配布ヲ受ク

第九條　本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學博士　田井二尚

文學士　上野照夫

文學士　澤潟久敬

文學士　重澤俊郎

文學博士　島　芳夫

文學士　國原太郎

文學博士　西谷啓治

文學士　久松眞一

文學博士　本田義英

文學士　松村克己

文學博士　矢田部達郎

文學博士　山内得立

文學士　井島勉

かやうな相卽的二面の凝滯なき相互映發に於いて美的凝視の態度が眞の純眞さに保たれる時、日常的な生の立場からは極めて平凡にして些細である事物が優に右の意味に於ける廣義の崇高性感情を伴ひ得ることは、古來幾多の傑れた我が國の短詩が既に十分に示す所であると云うてよく、尙要すれば到る處かの「靜物」のもつ汲み盡し難い感じの深さについて思ひ見らるべきなのである（存在そのものの神祕）。（三、了）

前號目次

美の批判……文學博士　植田壽藏
起信論序說……文學博士　久松眞一
アリストテレースに於ける實踐の構造……文學士　安藤孝行
—眞理諸部分の聯關—

會　告

一　本會ヘ入會希望者ハ京都市田中西浦町弘文堂書房內京都哲學會係宛ニ規定ノ會費（前表紙裏ニアリ）ニ送料ヲ加算シ御納付ノ上御申込被下度候

一　會員ノ轉居入退會（雜誌編輯事務以外ノ一切）ノ事務ハ弘文堂書房內京都哲學會係ヘ御通知被下度候

一　會費ハ「振替口座京都一九五五六番　京都哲學會」宛ニ御振込被下度候

一　前金切レノ場合ハ帶封ニ「前金切」ノ印章押捺致スベキニ付直ニ御拂込下サレ度候

一　本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛ニ御發送被下度候

京都帝國大學文學部內　京都哲學會

註文規定

一　會員にあらざる購讀者の御注文及び廣告に關する件は「弘文堂書房」へ御申込下され度候

一　本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下され度候

一　特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券十錢御送付下され度候

昭和二十一年十二月五日印刷納本
昭和二十一年十二月十五日發行

編輯人　京都哲學會　京都帝國大學文學部內

發行兼印刷人　右代表者　澤瀉久敬

印刷所（京都七）　八坂淺太郎　京都市左京區河原町四ノ四

弘文堂印刷部　京都市田中西浦町四〇

配給元　日本出版配給株式會社　東京都神田區淡路町二ノ九

發行所　弘文堂書房　東京都神田區淡路町四ノ四

定價	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五圓	金十五錢
	六冊（前金）	金三十圓	金九十錢
	十二冊（前金）	金六十圓	金一圓八十錢

（諸費の變更による郵費の過不足は半年又は一年毎に精算いたします）

大正五年四月六日
第三種郵便物認可
昭和二十一年十二月五日印刷納本（毎月一回一日發行）
昭和二十一年十二月十五日發行

哲學研究　第三百五十五號

定價金五圓
郵稅金十五錢